

[連載] 第52回

清々しき人々

月尾 嘉男 (東京大学名誉教授・工学博士)

ウーマンリブ運動を先導した ベティ・フリーダン

女性解放運動の発

スイスにある国際組織「ワールド・エコノミック・フォーラム」が今年三月に発表した「男女格差指数」によると、日本は一五六カ国中二二〇位です。...

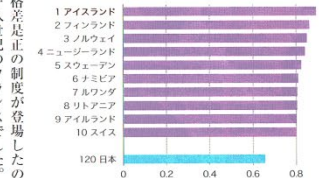


図1 男女格差指数 (GEI)



ベティ・フリーダン (1921-2006)

このような日本の状況は公的な立場にある人物が公開の場面で女性を擁護するような発言をしたことが象徴していますが、それは発言した個人の資質の問題だけではなく、社会の構造を反映した結果です。...

格差是正の制度が登場したのは一七八九年のフランス革命の結果、「七ヶ条からなる」人間と市民の権利の宣言」が成立しましたが、この人間と市民は男性でしかなく、女性も市民として認められなかった。...



図2 バリクロの助産師参政権要求デモ行進 (1947)



図3 ホーワード・オウルとサルトル (1965)

大平の時代と地域において男性が優位であった社会構造を是正しようという活動はフェミニズム(女性解放思想)と総称されますが、国家という単位で影響が及ぶ女性の特権獲得の運動として、一九四五年に女性参政権が成立しますが、それまでに三一九二〇年に実現しました。...

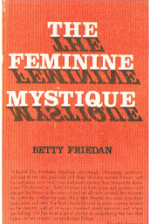
その影響により、一九六三年に世界最初に女性参政権が成立したニュージージーランドを皮切りにヨーロッパ各国を中心に世界各地に女性解放運動が波及しています。...

その状況に勢力な変化をもたらしたのがフランスの女性作家 S・D・ギロワールが戦後の一九四九年に発表した「第二の性」でした。「人は女に生まれるのでない、女になるのだ」という有名な言葉とともに、これまで明かされることになった女性の内面を開示したこと、終生の伴侶であった J・P・サルトルを手放し、追風もあり、地に立つ存在として、友人と文学雑誌を発行するなど活発な女性でした。...

フリーダンは、アメリカのイリノイ州の農産物加工業が主要産業である当時の人口が八万人弱のピオリアという地方都市でロシアからの移民で都心に宝有販売の商店を出店していたハリリー・ゴルドスタインとハンガリーからの移民で地方新聞の編集委員をしていたマリリアム・ゴルドスタイン夫妻の子供として、一九二二年に誕生しました。...

プロメテウス財団主催：青少年事業創造支援
SDGs 関連の身近な社会問題をテーマとした、青少年による新商品開発および新規事業のスタートアップを支援します。
公募概要
応募内容
助成金
応募資格
応募書類
選考過程
応募方法
お問合せ

図4 The Feminine Mystique (1963)



性の反対に影響され一旦は故郷のピオリアに帰郷し一旦は故郷のピオリアに帰郷し一旦は故郷のピオリアに帰郷し...

女性の地位向上に活躍

フリーマンが女性の社会での役割や地位の問題に目覚めたのは一九五七年のことです...

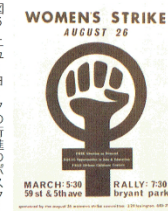
図5 女性のための全米機構 創設委員(1966)



全米に影響した活動

その活動が世界から注目されたのが、アメリカでの女性参政権の獲得...

図6 ニューヨークの行進のポスター(1970年)



推獲得の周年を記念して一九七〇年八月六日に実行された「平等を指す女性たちのストライキ」...

で約三〇万部も販売されるロングセラーになりました。ここでフリーマンが主張したことは、女性には他者から承認される願望、自己を表現する願望が存在する...

そのときのフリーマンの演説の要旨を紹介します。「各地から参加した女性は今現在の社会で見逃さるべき問題を抱えている。それは男女平等の権利の確保、子供の養育の制度、附帯を禁止する法律などであるが、そのためには科を放棄する、件別と対峙する、デモ行進により意見を表明する、法律を成立させるために国会議員に要求するなどの必要である。全員が同一の手段を実行する必要がある。各人が独自の方法で意見を表明すべきである。NOWはニクソン大統領が指名した連邦最高裁判所の理事候補が人種差別や女性蔑視の発言の過去があるという理由で就任に反対して候補者簿から削除することに成功し、翌年の一九七一年には全米から三二八人の女性が首都ワシントンに集結し、女性が公職に選任されることを推進するための全米女性政治連盟を結成するなど活躍します。さらに男女平等憲法修正案が議会でも可決される

た。運動も展開しています。しかし、社会はフリーマンの当初の理念以上に急速に変化し、女性尊重を否定する急進思想のフェミニスト、同性愛者のフェミニスト、セックスにおける両性対等を主張するフェミニストなどが登場し、すでに初老の年齢に達したフリーマンの思想とは相容れない運動が活発になってきました。その一九八一年に「セカンド・ステージ」を出版し、家族の再建を提起したため、急進思想のフェミニストや同性愛者から批判されるようになります。フリーマンは中産階級の白人女性を対象に改革運動を推進してきましたが、それは第二波フェミニズムの主題ではなかったものの、社会はG B Tと関係の理解を要求する時代に推移してしまっています。フリーマンの従来の思想では対応できない時代に突入するようになります。そこで一九九七年に「ビョンドジェンダー」を出版しますが、急速な意識の変化には十分に対応できない内容でした。さらに情報技術の急速な発展にも普及し、仕事の形態にもジョブ・シェアリングやフレックス・タイムなど、フリーマンが問題提起した女性化された時代の社会構造は大幅に変わりました。一九五〇年代には革新的であったフリーマンの思想や行動は現代では保守に思われています。幸運なことは微妙ですが、フリーマンは二〇〇六年に八十五歳で死去しており、社会における男女の関係や向転換させた偉大な女性であることは確実です。フリーマンの人生を冷徹に回顧すれば、自分が点滅した革命が急速に進行し、人生の後半は社会が先行していった印象も

あります。しかし、その真価は彼女の以下言葉に集約されています。「女性も社会から影響されるだけでなく、社会に影響する」ことができ、最後は男性と同様、自分で自分を決定することによって、生活を幸福にすることも不幸にすることもできます。これは男女に関係なく通用する人生の良策です。



つぎお よしお 一九四二年名古屋生まれ。一九六五年東京大学工学部卒業。工学博士。名古屋大学教授。東京大学教授を経て東京大学名誉教授。2002、03年総務省総務審議官。これまでコンピュータ・ソフトウェア、人工知能、仮想現実、メディア政策などを研究。全国各地でカサノとクロスカントリースキーをしながら、知床半島、羊蹄山麓、釧路湿原、白馬御山麓、宮川清流、瀬戸内海など自然を主宰し、地域の有志とともに環境保護や地域振興に取り組む。主要著書に「日本百年の転換戦略」(講談社)、縮小文明の展望(東京大学出版会)、地球共生(講談社)、地球の救い方、水の話(遊行社)、「1000年先を読む」(モロゾリ研究所)、先住民族の戦い(遊行社)、誰もわなかった日本(当は恐い日本)、「戦後日本 地域創成の歴史」(東京大学出版会)など。最新刊は「渾身のルポルタージュ」(遊行社)。

Advertisement for 'Tsukenagari' (つなげる) children's dining hall. Features a young girl eating and text about providing a safe and comfortable place for children to eat. Includes contact information for Chuo Kōron Shinsha.